

南一郎平を朝ドラに！

日本三大疎水の父

南一郎平

ものがたり

問合せ
総合政策課企画調整係
(☎27-8109)

最終回 南一郎平の思いを次代へ

南一郎平は、これまで本コーナーで紹介してきた広瀬久兵衛や松方正義をはじめとする多くの人たちとの出会いを大切に、支えられながら誰も成し遂げることができなかった難工事の広瀬井路を完成へと導きました。

土木工事に関して素人だった一郎平が、疎水事業の父と呼ばれるまでになった背景には、人々とのつながりに加えて座右の銘である「一日学」（今日一日だけはと努力を続けること、一生続けて学ぶことがで



小学校広瀬井路見学

完成まで120年の歳月を要した広瀬井路は、通水から150年を経た今でも当時の姿を残しながらとうとうと流れ、宇佐の大地を潤し続けています。

市では、一郎平の顕彰活動や世界かんがい施設遺産に登録された「宇佐のかんがい用水群」などを通じて、郷土に対する愛着の醸成や地方創生の推進を図っていききたいと考えています。朝ドラ誘致活動に

対して、引き続き皆さまのご理解とご支援をお願いします。

※宇佐学マンガシリーズ⑤「日本三大疎水の父 南一郎平」は市民図書館 電子分館で閲覧できます。

多文化共生ひろば

問合せ 秘書広報課 多文化共生・交流係
(☎27-8240)

このコーナーでは、宇佐市の外国人住民や支援者、市の取り組みなどについてご紹介します。みんなが暮らしやすい多文化共生社会を作るためにまずは知ることから始めませんか。

私は3年前から宇佐で生活を始め、全てが新しく未経験のことばかりでした。最初は寂しくてたまりませんでしたが、早く日本の生活に慣れようと必死で日本語を勉強しました。苦労の甲斐あり、少しずつ慣れてきました。日本語教室の先生方はとてもやさしく、教室を支えてくれる人たちはお弁当などを届けてくれ、私たちを励ましてくれます。だんだんと日本語が分かるようになってくると、友だちも増え、困ったときも解決できそうな気がしてきました。紅葉狩りやトレッキングなどいろいろな交流活動にも参加し、私たちのためにたくさんの人がおもてなしをしてくれて、日本が世界で最も優れた国と言われる理由が少しずつ分かってきました。私は宇佐で日本の文化や教育にふれ、視野が広がり、周りの人たちに育ててもらったと思っています。感謝の気持ちでいっぱいです。



お便りをくれた方

名前 カオ タット タンさん 国籍 ベトナム
住所 森山 職場 大関食品㈱

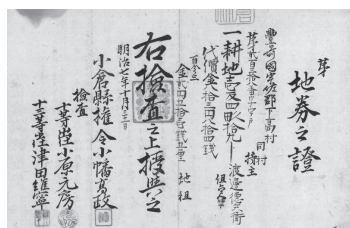
慶応3（1867）年、明治維新による新政府が発足しましたが、地主と小作農の関係は江戸時代のままでした。小作農の生活は貧しく、全国各地で農民一揆が頻発。宇佐においても明治2年、橋津で農民約600人が集結、庄屋などを打ち壊す一揆が発生しています。

明治5年、新政府は土地売買の自由を許し、土地所有権を国が認める「地券」を発行。この地券をベースに地租改正を行い、地価の3%を税として土地所有者から徴収するシステムに改めます。江戸時代の五公五民に比べると一見税の軽減に見えますが、ねらいは金納による税收確保と、凶作による税收減リスクを農民に転嫁することにあります。

同じ頃、廃藩置県により小倉県が設置され、宇佐は駅館川以

西を第八大区、以東を第九大区とし、その下に小区が置かれました。地租の徴収や村落の管理などの事務は、地主から選ばれた区長たちが担当しました。

先述の通り、地租は金納です。区長たちは農民から預かった米を大阪神戸の米商人に売り現金化して納税。一連の会計処理は農民に報告のうえ承認を受ける決まりでしたが、守られない区や米売買額と納税額との差額を共有金としてプールする区もありました。農民たちは不信感を募らせるとともに差額を返せと訴えます。これを「公金割戻し」運動といい、後に火を噴くことになりました。続く。



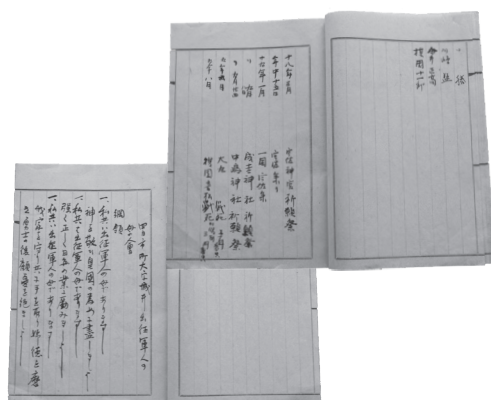
平和ミュージアム（仮称）開館に向けて
kioku wo tsunagu

記憶をつなぐ

このコーナーでは、戦後75年以上経って体験者の声が薄れゆく中、戦争の実像を伝えるためにこれまでで収集した資料や今に残る戦争遺構にまつわる「記憶」を紹介していきます。

52 四日市町大字城井出征軍人の母の会綱領

城井地区から出征した軍人たちの母親が結成した会の綱領です。綱領には、日本のために尽くし、日々のなりわいに励んで家を守り、出征者が心置きなく戦えるように軍人の母として努めることが唱えられています。この綱領は、昭和19年末ごろのものと思われ、後ろには出征者71人の氏名・年齢・所属部隊が記されています。



■ 戦争関連資料を収集しています。提供していただける方は社会教育課 文化財係（☎ 27-8199）にご連絡ください。資料は平和の尊さを学ぶために活用いたします。

問合せ 社会教育課 平和ミュージアム建設準備室（☎ 27-8200）